

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (151)

ありそ

夕食時です。タモツ君がお父さんに言いました。

「今日、学校でサユリちゃんと、テニスの錦織圭選手のニシコリというのがニシキオリの
i がなくなったんだって、見つけたんだよ。」

「それは、すごい。日本語のバラが茨城県のイバラの i がなくなったことばだというのは
有名だけど、キオの i がなくなってコになるなんて、よく気がついたね。」

「ローマ字を教わったから、ローマ字で書いたら、kio の i がなくなると ko になるって、
わかったんだ。」

「タモツにはむずかしいだろうけど、万葉集という昔の本にアリソということばが出てくる。
荒々しい波が打ち寄せる大きな岩のある磯^{いそ}がアリソなんだけど、「白波のアリソに寄する」
なんて使われるんだ。そう、ara - iso の ra の a がなくなったんだね。」

荒 磯

あら いそ

ara - iso



ar iso

(ア リ ソ)



【編集部注】お父さんが言っている「白波の……」は、万葉集巻 17 - 3991 の長歌の一部です。

しらなみの ありそによする
「之良奈美能 安里蘇尔与須流」とあります。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (152)

わぎもこ

夕食が済んで、タモツ君の家族みんなで話しています。お母さんが言いました。

「さっき、お父さんがアライソがアリソになるって、言ってらしたけど、お母さんも知ってる万葉集のことばがあるの。」

「また、昔のことば？」と、タモツ君。

「そう。男の人が愛する女の人を呼ぶことば。」

「お父さんがお母さんを呼ぶんだね。」と、エミちゃん。

「そう！ ワギモコっていうの。」

「わたしの大切な人ということでね、ワガイモコがワギモコになる。」と、お父さん。

「わかった！ waga - imoko の ga の a がなくなったんだね。」と、タモツ君。

「そのとおり！」と、お父さんとお母さん。



ワ ガ イ モ コ
waga-imoko
↓
wag imoko
ワ ギ モ コ



【編集部注】万葉集巻15 - 3645には「我妹子（和伎毛故）ははやも来ぬかと待つらむを沖にや住まむ家付かずして——いとし妻は、早く帰ってこないかと待っているだろうに。陸地から遠く離れた沖に泊まり続けるのか。家が近づかないで……」とあり、巻15 - 3701には「竹敷の黄葉を見れば我妹子（和芸毛故）が待たむと言ひし時そ来にける——竹敷の黄葉を見ると、いとし妻が待ちましようと言った、その時が来てしまったのだなあ」とあります。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (153)

たがやす

小4のタモツ君は、学校の帰りにおばあさんのところに寄りました。

「おばあちゃん、こんにちは。」

「あら、学校の帰り？」

「そう。おばあちゃん、お庭でなにしてるの？」

「ご覧のとおり。固くなった土を耕しているの。」

「ふーん。そんなに深く掘り返すの。」

「そう。上の土と下の土を入れ替えるの。だから、耕すっていうのよ。」

「タガヤス？」

「そう。耕すって、田返すなの。ローマ字を習ったから、わかるわね。」

「あ。ta - kaesu の ka が ga になり、e が ya になってるんだ！」

田かえす
ta-kaesu
tagayasu
耕す



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (154)

連濁

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「耕すって、田返すなんだって教わったけど、「か」が「が」になるのは、どうして？」

「そうね。「歯」に「前」がつくと、どう？ 「奥」がついてもいいわ。」

「前歯。奥歯。あ、「は」が「ば」になるんだね。」

「ことばとことばが重なって一つのことばになるとき、カがガになったりハがバになったりすることを連濁っていうの。」

「レンダク？」

「そう。カキクケコは清音、ガギグゲゴは濁音っていうの。カ行サ行タ行ハ行は清音、ガ行ザ行ダ行バ行は濁音なのね。ことばが重なるのって、ことばがつながる、連なるってことだから、連なってできる濁音ということで、連濁っていうの。」

ことばが連なって
できる濁音だから、
連濁っていうのよ。

前 + 歯
まえ は
↓
ま え ば

奥 + 歯
おく は
↓
お く ば



【編集部注】なお、ハ行音に対してはバ行音が濁音、パ行音は半濁音と言います。音声としては、[h] に対する [b] ではなく、[p] に対するのが [b] です。古代の日本語では、ハ行音は「パピプペポ」でしたが、唇の緊張が緩んで、語頭では「ファフィフフェフォ」、語中では「ワキウエヲ」になり、さらに唇の緊張が緩んで、今日の「ハヒフヘホ」になったようです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (155)

おととい

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「連濁で、田返すの「か」が「が」になって、「たがえす」ならいいのに、「たがやす」は、「え」が「や」になっているでしょ。どうして？」

「うーん、むずかしいわね。そうだ、タモっちゃん、きのうの前の日はなんて言う？」

「おととい。」

「そう。おとといは、もとは「をとつひ」なの。去年の前の年が「おとし」でしょ。その「おと」も同じ。「をと」は「をち」ともいうの。自分に近いところが「こち」、相手に近いところが「そち」、遠いところが「をち」なの。「つ」は、そう、「まつげ」の「つ」と同じ。だから、「をとつひ」は「遠くの日」ということなのね。その「をとつひ」の「つ」が前の「をと」の二つの「お」に引っ張られて「と」になった。それが「おととい」。」

を と つ ひ → お と と い

を ち + の + ひ
(遠 く の 日)



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (156)

a a → aya

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「遠くの日ということの「おととい」が「をとつひ」だったってことはわかったけど、「たかえす」の「え」が「や」になったわけがわからない。」

「そうよね。ローマ字で書いてみたら？」

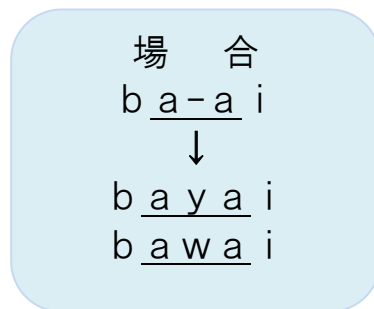
「ローマ字で？ ta - kaesu と tagayasu だよね。」

「ほら、taga のところ、a が続くでしょ。だから、この a にひかれて、e も a になるの。」

「e が a になると、tagaasu だね。」

「そう。a a って続くので言いにくいよね。場合ということばも、ba - ai って言いにくいから bayai とか bawai とかって言うことがあるの。それと同じで、tagayasu になるの。」

「ふーん。むずかしいんだね。e が a になって、a a が aya になるんだ。」



【編集部注】ローマ字で書くと、a a → aya ですが、発音記号では [a a] → [aja] です。[j] は、Jの小文字ではなく、[i] の拗音化した音を表しています。[s] の拗音化した音が [ʃ] で表されるのと同じです。サ行音の「さしすせそ しゃしゅしょ」は、発音記号で表すと、[sa ʃi su se so ʃa ʃu ʃo] です。[s] の発音のときよりも [ʃ] は舌が平たくなって上あごに近づいています。拗音化しているのです。[si] だと、スイのような発音になります。なお、セ [se] をシェ [ʃe] と発音する地域もあります。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（157）

児童・会合

4年生の教室です。「児童」の「児」を辞書で調べていたサユリさんが言いました。

「タモっちゃん、さっき教科書に出てきた「児童」の「児」って、3年のときに習った「童話」の「童」と同じで、「子ども」という意味なんだって。」

「そう。じゃあ、「児童」というのは、「子ども・子ども」なんだ。」

「そうなの。「愛児」は「愛する子ども」、「幼児」は「おさない子ども」、「育児」は「子どもを育てること」だって。こういうのなら、よくわかるけど……。」

「ヨージのヨーって、ヨーチエンのヨー？」

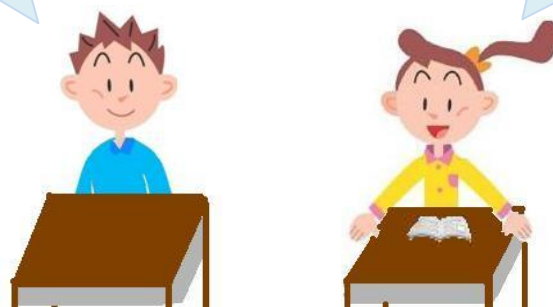
「そう。6年で習う字。」

「ヨーチエンのヨーだから、「幼児」は「おさない子ども」なんだ。——あ、そうだ。2年のときに習った「会合」というのは、どちらも「あう」という意味だったよね！」

「愛児」	「愛する子ども」
「幼児」	「おさない子ども」
「育児」	「子どもを育てること」

じゃあ、「児童」は
「子ども・子ども」？

「児」は
「子ども」という意味
なんだって。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (158)

熟語

タモツ君は、学校の帰りにおばあさんのところに寄りました。

「おばあちゃん、今日、学校でサユリちゃんが辞書で調べたら、「児童」というのは、「児」も「童」も同じ「子ども」という意味なんだって。」

「そう。少し前に「戦争」というのを習ったと言ってたわよね。「戦」は「たたかう」、「争」は「あらそう」だから、同じような意味の漢字でできている熟語よね。」

「ジュクゴ？」

「そう、二つ以上のことばが合わさってできたことば。「戦」だけ「争」だけでは使わないけれど、漢字って、一つ一つが一つのことばなの。「愛情」の「愛」と「情」は、「愛」だけ、「情」だけでも使うでしょ。」

「ジョーは、習っていないけど、ジョーがあるとかないとかのジョーかな。」



【編集部注】「小学校学習指導要領」の「学年別漢字配当表」によると、「情」は5年で学ぶことになっています。「情報・情熱・人情・強情・風情^{ふぜい}」などと熟語の一部として用いることが多いのですが、「情がある／ない」「情に厚い」のように、単独でも用いられます。なお、「情報」の「情」は、情状・実情・事情・政情・民情などの「情」で、体験した者だけにわかるほんとうのこと、事実をいいます。事実の知らせが「情報」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (159)

□=□

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「児童とか戦争とか、それから、ぼくが見つけた会合とか、同じような意味の漢字でできている熟語って、ほかにもあるのかな。」

「1年のときに習った森と林の「森林」、6年で習う「き」の意味の樹と木の「樹木」、5年でならう河と川の「河川」、中学校で習う「やま」の意味の岳と山の「山岳」、やはり中学校で習う沼と3年で習った湖の「湖沼」……。」

「わあ、たくさんあるんだね。今、思い出したけど、2年で習った「絵画」もそうかな。」

「そう。3年までに習った漢字だけの熟語だと、意思・衣服・家屋・岩石・原野・行進・行動・幸福・使用・生活・先頭・中央・庭園・天空・同等・道路・土地……。」

「うわあ、そんなにあるの！ 意思って、おもうこと？ むずかしいね。」

同じような意味の漢字で
できている熟語って
たくさんあるんだね！



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（160）

行進・行動

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「同じような意味の漢字でできた熟語って、おもしろいんだね。さっき、教えてくれたのに、「行進」と「行動」があったでしょ。「行」が「いく」という意味だと「行進」、「おこなう」という意味だと「行動」なのかな。」

「そう！ 「生」については、「いきる」だと「生活」だけど、「うむ」だと「生産」、「なる」だと「生成」なのよ。」

「ああ、産も成も4年になってから、教わったよ。産業の産と成功の成でしょ。」

「そう！ よく思い出したわね。大人になると、常用漢字表にない漢字を使った熟語もたくさん見ることになるけれど、そんなとき、もう一つの漢字から、意味のわかることもあるの。ひっぱる^{けんいん}牽引、なげすてる^{ほうき}抛棄、あびる^{もくよく}沐浴、うばう^{りやくだつ}掠奪、もらす^{ろうえい}漏洩……。」



【編集部注】最後におばあさんの言っている熟語の例には、こんなものもあります。幹旋・^{あつせん}圀繞・

疫癘^{えきれい}・依怙^{えこ}・婉曲^{えんきよく}・猿猴^{えんこう}・艷麗^{えんれい}・謳歌^{おうか}・改竄^{かいざん}・開闢^{かいびやく}・苛烈^{かれつ}・艱難^{かんなん}・緘黙^{かんもく}・玩弄^{がんろう}・旗幟^{きし}・毀損^{きそん}・

忌憚^{きたん}・掘鑿^{くつさく}・懈怠^{けたい}・剛毅^{ごうき}・涸渴^{こかつ}・扈從^{こじゅう}・誤謬^{ごびゅう}・雇傭^{こよう}・魂魄^{こんぱく}・猜疑^{さいぎ}・炸裂^{さくれつ}・嗤笑^{ししょう}・炊爨^{すいさん}・截断^{せつだん}・

騷擾^{そうじょう}・粗笨^{そほん}・体軀^{たいく}・頹廢^{たいはい}・兌換^{だかん}・馳驅^{ちく}・紐帶^{ちゅうたい}・偷盜^{ちゅうとう}・稠密^{ちゅうみつ}・跳梁^{ちょうりょう}・佇立^{ちよりつ}・沈淪^{ちんりん}・淘汰^{とうた}・疼痛^{とうつう}・

投擲^{とうてき}・童蒙^{どうもう}・波濤^{はとう}・煩悶^{はんもん}・譬喻^{ひゆ}・剽窃^{ひょうせつ}・貧窶^{ひんく}・敏捷^{びんしょう}・擯斥^{ひんせき}・紊乱^{びんらん}・浮游^{ふうゆう}・俘虜^{ふりょ}・幫助^{ほうじょ}・豐饒^{ほうじょう}・

泡沫^{ほうまつ}・朋友^{ほうゆう}・幔幕^{まんまく}・蒙昧^{もうまい}・憂悶^{ゆうもん}・熔融^{ようゆう}・懶惰^{らんだ}・稜角^{りょうかく}・鏤刻^{るこく}など。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (161)

上下・左右

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「タモっちゃん、「上下」って、熟語は知ってる？」

「うん、「うえ」と「した」でしょ。」

「そう。「まえ」と「うしろ」が「前後」、「みぎ」と「ひだり」が「左右」。」

「あ！ 前に「すえ」という字を習ったとき、「本末^{ホンマツ}」という熟語を見つけたよ。上の字と下の字が反対の意味になるんだね。でも、「みぎ」と「ひだり」が「右左^{ウサ}」にならないのはどうして？」

「日本での言い方と中国での言い方が違うからでしょうね。日本では喜びと悲しみと言うけど、熟語では「喜悲^{キヒ}」でなく、「悲喜^{ヒキ}」って言うでしょ。」

「おもしろい。生きることと死ぬことは「生死」だけど、近くと遠くは「遠近」だよね。」



うえ した → 上 下
まえ うしろ → 前 後

みぎ ひだり → ~~右 左~~ 左 右
喜びと悲しみ → ~~喜 悲~~ 悲 喜
近くと遠く → ~~近 遠~~ 遠 近



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (162)



学校で、タモツ君が隣の席のサユリさんに話しています。

「児童が「子ども」という同じ意味の「児」と「童」だってサユリちゃんに教わったって、おばあちゃんに話したら、上下とか前後とか左右とか、上の字と下の字が反対の意味になる熟語があるって、教えてくれたよ。」

「そうなんだ。習った漢字だと、明暗とか長短とか利害とか苦楽とか晴雨とか寒暑とか得失とか売買とか新古とか主客とか強弱とか高低とか和洋とかもそうだよね。」

「すごい！ そんなにあるんだ。ぼくは生死と遠近だけしか気がつかなかった。」

「2年で習った「同」の反対は6年で習う「異」で「異同」という熟語になるし、3年で習った「安」の反対は6年で習う「危」で、「安危」という熟語になるし、3年で習った「開」の反対は6年で習う「閉」で、「開閉」という熟語になる。辞書で調べたの。」

上の字と下の字が
反対の意味になる熟語、
こんなにあるんだ！

異 同	和 洋	主 客	得 失	苦 楽	明 暗
安 危	生 死	強 弱	売 買	晴 雨	長 短
開 閉	遠 近	高 低	新 古	寒 暑	利 害



【編集部注】「旧」は5年生で学ぶ字なので、勉強好きのサユリさんも、「新旧」は挙げていません。なお、「新古」「新旧」と同じ意味で「新陳」という語もあります。新陳代謝の新陳です。この場合の「陳」は、〈①ならべる。陳列・出陳〉、〈②のべる。陳述・開陳〉の陳ではなく、〈③ふるくなる。陳腐〉の陳です。ついでながら、新陳代謝はmetabolismの訳語として明治時代に生まれた語です。物質交代・物質代謝とも訳されます。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (163)

飲食・見聞

「ただいま！ お母さん、いる？」 学校から帰るなり、タモツ君が言いました。

「お帰りなさい。なにか用？」

「うん。おばあちゃんに上の字と下の字が反対の意味になる熟語を教わって、学校でサユリちゃんに話したら、明暗だとか長短だとか、たくさん教えてくれたの。それで、辞書を見ていたら、飲食・兄弟・見聞・山川・姉妹・終始・水火・大小・男女・天地・父母なんて熟語が見つかったんだけど、こういうのも、上の字と下の字が反対の意味になる熟語なのかな。飲んだり食べたりの飲食なんて、反対の意味じゃないでしょ。」

「そうね。6年で習う呼吸は、息をはくと息を吸うだから向きが反対だけど、飲むと食べるの飲食とか見ると聞くの見聞とかは、似たことばみたいね。反対だけでなく、組になったり並べて言ったりするのもあるって、考えることにしたらいいのじゃないの。」

飲食 ・ 兄弟 ・ 見聞
山川 ・ 姉妹 ・ 終始
水火 ・ 大小 ・ 男女
天地 ・ 父母

そうね。組になったり、
並べて言ったりする
熟語かしら。



上の字と下の字は
反対の意味じゃない
よね。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムの際にでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (164)

ペアと並ぶと

子どもたちが寝静まったあと、タモツ君のお父さんとお母さんが話しています。

「タモツに聞かれたんだけど、お義母さんが左右とか前後とか、上の字と下の字とが反対の意味になる熟語を覚えてくれたので、学校でサユリさんに話したら、たくさん覚えてくれて、辞書を見たら、いろんなのがあって、飲食とか見聞とかもそうなのかなって。」

「うーん、たしかに反対の意味じゃないよね。」

「兄弟とか父母とかは組になる熟語、飲食や見聞は並べて言う熟語と考えることにしたらいいって、言ったんだけど……。」

「あ、それ、いいんじゃない。一方を否定すると他方になるとか、向きが逆になるとか、いかにも反対の意味だってわかるのとはちがうけど、ペアにして言ったり、並べて言ったりするのもあるっていうことで……。」

組になる熟語

(例) 兄弟・父母

並べて言う熟語

(例) 飲食・見聞



【編集部注】いかにも反対の意味の漢字によると見られる熟語には、こんなものもあります。

あいどう えいきょ おうふく おんしゅう か げん が ぞく か ふく かんきゅう かんしつ き が き せん きつきょう き ふく き よ
愛憎・盈虚・往復・恩讐・加減・雅俗・禍福・緩急・乾湿・起臥・貴賤・吉凶・起伏・毀譽・
きよじつ くっしん けい い けいちよう けいちよう けん ぐ こうせつ こうなん し ゆう じゅうおう しゅう し じゅきゅう しゅしゃ
虚実・屈伸・経緯・輕重・慶弔・賢愚・巧拙・硬軟・雌雄・縦横・収支・需給・取捨・
しゅじゅう しゅ び じゅんぎやく しょうじょう しんがん しん ぎ しん そ せい そ せいだく ぜんあく そううつ そうばん そ みつ
主従・首尾・順逆・霄壤・真贋・真偽・親疎・精粗・清濁・善惡・躁鬱・早晚・粗密・
そんばい そん び たいしゃく た か ち そく ちゃくだつ てんじょう てんめつ と ひ なん い にゅうたい のうたん ひ が
存廃・尊卑・貸借・多寡・遲速・着脱・天壤・点滅・都鄙・難易・入退・濃淡・彼我・
ひょうそく ひょうたん ひん ぶ ひん ぼ ふ ぎよう ふ ちん ほうへん めいじつ よ だつ ろうにやく わ せん
平仄・氷炭・貧富・牝牡・俯仰・浮沈・褒貶・名実・与奪・老若・和戦など。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (165)

落雷・雷鳴

週に一度のおじいさんおばあさんを交えての夕食のあと、タモツ君がおばあさんに言いました。

「さっきのニュースで、ラクライがあったって言ってたでしょ。ラクはおちることで、ライってかみなりのことでしょ。」

「そう。雨冠あめかんむりに田で、ライが音おん、かみなりが訓くん。中学生になると教わるわ。」

「雷が落ちることだったら、どうしてライラクって言わないのかな。」

「でも、雷が鳴ることは、雷鳴って言うのよ。」

「熟語の組み立てって、おもしろいね。雨が降ることは降雨しも、霜が降りることは降霜こうそうだけど、氷が張ることは氷結とも結氷とも言う。」と、おじいさん。

「あ、そうだ。芽が出ることは発芽、花が咲くことは開花だったよね。」と、タモツ君。

雷が鳴る → 雷鳴
雷が落ちる → ~~雷落~~ 落雷



雨が降る → 降雨
霜が降りる → 降霜
氷が張る → 氷結・結氷

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (166)

「落雷」は「落ちた雷」？

おじいさんおばあさんを交えての夕食のあと、タモツ君の家族が話しています。

「雨が降ることも降雨ですけれど、降った雨のことでも降雨と言うでしょう。」と、お母さん。

「そう。降雨量なんて言うときの降雨だね。タモツ君の言ってくれた発芽も、芽が出ることであり、出た芽のことでもある。」と、おじいさん。

「おじいちゃんのおっしゃった氷結と結氷、結氷のほうは張った氷のことにもなるけど、氷結のほうは氷が張ることになるだけだね。」と、お父さん。

「雷が落ちることの落雷は、落ちた雷のことになることもあるの。」と、タモツ君。

「落雷に遭って亡くなったとか車の中にいて落雷が避けられたとかいうときの落雷は、落ちた雷ということでもある。」と、おじいさん。

「ありがとう。どんな使い方をするかで、ちがう意味になるんだね。」と、タモツ君。

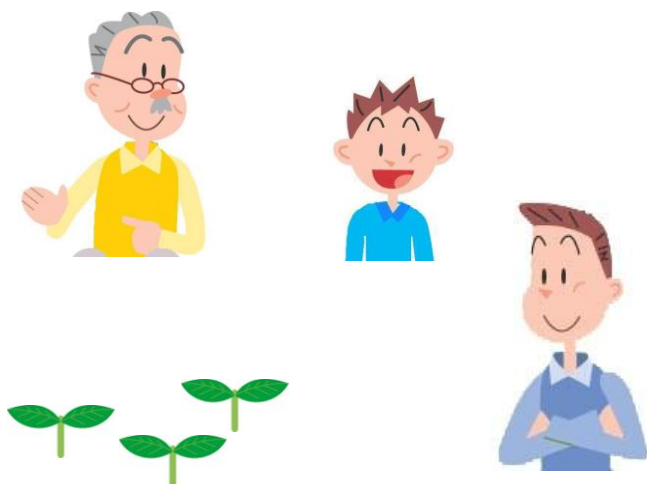
降雨 { 雨が降ること
降った雨のこと

発芽 { 芽が出ること
出た芽のこと

落雷 { 雷が落ちること
落ちた雷のこと

氷結——氷が張ること

結氷——氷が張ること
張った氷のこと



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（167）

□スル、□ガ

学校で、タモツ君が隣の席のサユリさんに話しています。

「サユリちゃん、雷が落ちることを落雷^{らくらい}って言うって知ってた？」

「うん。雨が降ることは降雨^{くわんう}でしょ。」

「そう！ 芽が出ることは発芽^{はつぎ}、花が咲くことは開花^{かいけ}。」

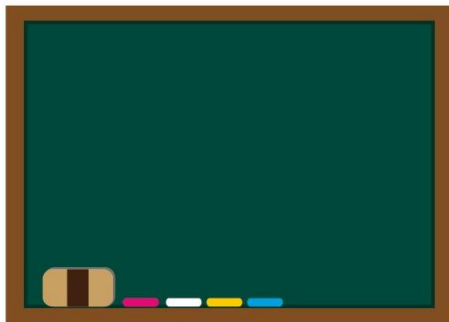
「〈なんとかする、なんとかが〉って形になるのよね。」

「そうなんだ。でも、雷が鳴るのは雷鳴^{らいめい}って言うんだって。」

「そうなのよ！ おなかが痛むことを腹痛^{ふくう}って言うでしょ。フクもツウも6年になってから習う漢字だけど……。」

「そうか。頭が痛むのが頭痛^{かぶつ}だもんね。」

「〈なんとかがなんとかする〉って形。でも、熱が出るのは発熱^{はつねつ}なんだよ！」



【編集部注】サユリさんは熱が出ることを「発熱^{はつねつ}」と言っていますが、病院などでは医師や看護師など医療関係者が「熱発^{ねつぱつ}」と言うことがあります。ただし、汗が出ることは「発汗^{はつあせ}」、血が出ることは「出血^{しゅっけつ}」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (168)

ロガロスル

タモツ君は、学校の帰りにおばあさんのところに寄りました。

「おばあちゃん、このあいだ、落雷や雷鳴のことを教わったでしょ。学校でサユリちゃんに話したら、〈なんとかする、なんとかが〉というのと〈なんとかがなんとかする〉というの
だってまとめてくれたの。」

「うまくまとめたのね。」

「雷鳴や腹痛は〈なんとかがなんとかする〉だけど、落雷や発芽・開花・発熱なんかは〈な
んとかする、なんとかが〉でしょ。〈なんとかがなんとかする〉は、少ないの？」

「そうね。地面が震える地震、日が沈む日没、虫が仲立ちする虫媒なんて、自然のできごと
をいうことば、国が営む国営、国が立てる国立、天が与える天賦、気が絶える気絶なんてこ
とばもあるけれど、〈なんとかする、なんとかが〉の形よりも少ないかな。」

〈なんとか が なんとかする〉

地震	地面 が 震える
日没	日 が 沈む
虫媒	虫 が 仲立ちする
国営	国 が 営む
国立	国 が 立てる
天賦	天 が 与える
気絶	気 が 絶える



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (169)

風を防ぐ

4年生の教室です。サユリさんが隣の席のタモツ君に言いました。

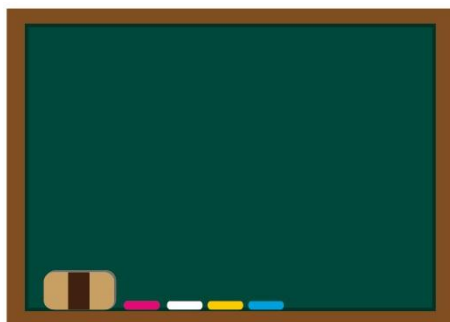
「読書は書物を読むことだし、着席は席に着くことだよね。〈なんとかをなんとかする〉
っていうときは、〈なんとかする、なんとかを〉だし、〈なんとなかになんとかする〉ってとき
は〈なんとかする、なにとかに〉だよね。」

「うん。」

「だとしたら、この図鑑の飛行機のここ、「風防ガラス」って書いてあるの、「防風ガラス」
の違い？」

「あ、そうだね。……あれ、辞書を引いたら、「ふうぼう」は「風防」で、用例に「風防ガ
ラス」って書いてあるし、「ぼうふう」は「防風」で、用例に「防風林」って書いてある。」

「そう。ガラスのときは風防、林のときは防風なんだ。」



風 防？

防 風？

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (170)

風防・防風

タモツ君は、学校の帰りにおばあさんのところに寄りました。

「今日、学校でサユリちゃんにきかれたんだけど、ふつうは〈なんとかする、なんとかを〉なのに、風を防ぐのは、ガラスのときは風防、林のときは防風なの？」

「すごい！ すばらしい発見をしたのね。昔、戦闘機に風よけのためのガラスをつけたの。それが風防ガラス。それから、風よけの眼鏡もできて、風防眼鏡って言うの。林は防風林がふつうだけど、風よけの林だからって、風防林って言った人もいるのよ。日本語では、風よけとか虫よけとかって言うでしょう。それが中国語では、防風・防虫で、〈なんとかする、なんとかを〉の形になるの。防災・防煙・防音・防火・防寒・防空・防砂・防災・防湿・防臭・防縮・防暑・防塵・防水・防錆・防虫・防潮・防諜・防波・防犯・防風……。〈なんとかを〉が前にくるのは、風防と、砂防ダムの砂防、水防訓練の水防くらいかな。」



【編集部注】「風防眼鏡」は、「ゴーグル goggle」と呼ばれることが多くなっています。なお、

「防錆」は、音+音では「ボウセイ」ですが、音+訓の重箱読みジュウバコの「ボウさび」とも言います。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (171)

砂防・防砂

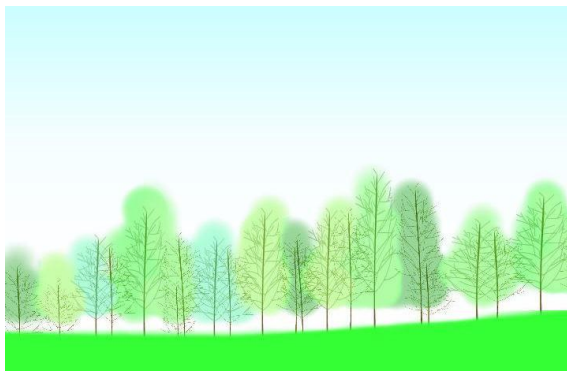
学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君がおばあさんと話しています。

「^{ボウ}防なんとか」はたくさんあるのに、「^{ボウ}なんとか防」は、少ないんだね。「風防」は、「風防ガラス」と「風防眼鏡」のとき、「水防」は、「水防訓練」のとき、「砂防」は「砂防ダム」のときに使うんだね。反対の「防風」は「防風林」、「防水」は「防水時計」というのがあるよね。「防砂」っていうのは、初めてだけど、どんなときに使うの？」

「ああ、そうか。タモっちゃん知らないかもしれない。海岸に近い畑を砂から守るために「防砂林」が作られているし、海岸には「防砂堤」というのもあるのよ。」

「ふーん。ダムのときは「砂防」で、^{はやし}林や^{テイ}堤のときは「防砂」なんだ。」

「あら、「防砂堤」の「テイ」は「つつみ」っていうのよ。「防砂」ってことばがあるのに、砂よけだから「砂防」だと考えて、「砂防ダム」にしてしまったのね、きっと。」



【編集部注】「防風」の用例では、^{とみやすふうせい}富安風生（明治 18 (1885)～昭和 54 (1979)）の俳句に「^{ばう ふ かご}美しき砂をこぼしぬ防風籠」とあります。この俳句は文語文法で書かれているので、ふりがなは旧仮名遣いです。なお、「風」には、「フウ」と「フ」の音があります。「風情」は「フゼイ」です。この俳句の場合は五音にするために「フ」の音を用いています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (172)

ロヲロスル

学校の帰りに寄ったおばあさんのところで、タモツ君はおばあさんと話しています。

「ふつうは〈なんとかする、なんとかを〉になるのに、「風防・水防・砂防」のように〈なんとかをなんとかする〉になるのって、ほかにもあるの？」

「そんなに多くはないけれど、ありますよ。日本人はお米を作って、お米を食べるでしょ。だから、米作とか米食とかいうことばがあるの。」

「そうだ、欧米の人は肉食だって……。漢字でないけど、パン食というのもあるよね。」

「そう。菜食・草食なんてことばもあるわ。それから、水を浴びる、水浴びスイヨクの水浴、車両検査を短くした車検なんてことばも〈なんとかをなんとかする〉になっているわね。」

「水浴びをスイヨクっていうの！ だから、海水浴とか日光浴とか森林浴なんてことばがあるんだ。」

〈なんとか を なんとかする〉

米作	・	米食	・	肉食
菜食	・	草食	・	車検
海水浴	・	灌水浴	・	砂浴
蒸気浴	・	森林浴	・	水浴
トウ 湯浴	・	日光浴	・	熱気浴
薬浴	・	ゆ 湯浴	・	冷水浴



【編集部注】タモツ君が驚いていますが、〈なんとかを浴する〉の「○浴／○○浴」になる語は、『広辞苑第六版』によると、こんなにあります。なお、「湯を浴びる」の「湯浴」は音＋音の「トウヨク」とも訓＋音ゆ トウの湯桶読みゆの「ゆヨク」とも言うようです。海水浴・灌水浴・砂浴・蒸気浴・森林浴・水浴・トウ湯浴・日光浴・熱気浴・薬浴・ゆ湯浴・冷水浴。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (173)

水没

日曜日の朝です。テレビを見ていたタモツ君が言いました。

「お母さん、ゴーウで川がハンランして、たくさんのお家がスイボツしたんだって。前にお
ばあちゃんが〈なんとかがなんとかする〉になる熟語に「日没」^{うち}というのがあるって教えて
くれたけど、スイボツって、どういうこと？」

「屋根まで水に浸かって、お家が見えなくなったっていうことよ。」

「じゃあ、ボツは「日没」のボツと同じだね。」

「そう。「水没」って書くの。」

「そうなんだ。……でも、変だね。「日没」は、日が沈むことだけど、「水没」は、水が沈む
ことではないよね。」

「そう！ 水に沈むこと。「水が」でなく、「水に」。」



日没 <なんとか **が** なんとかする>

水没 <なんとか **に** なんとかする>



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (174)

〇没

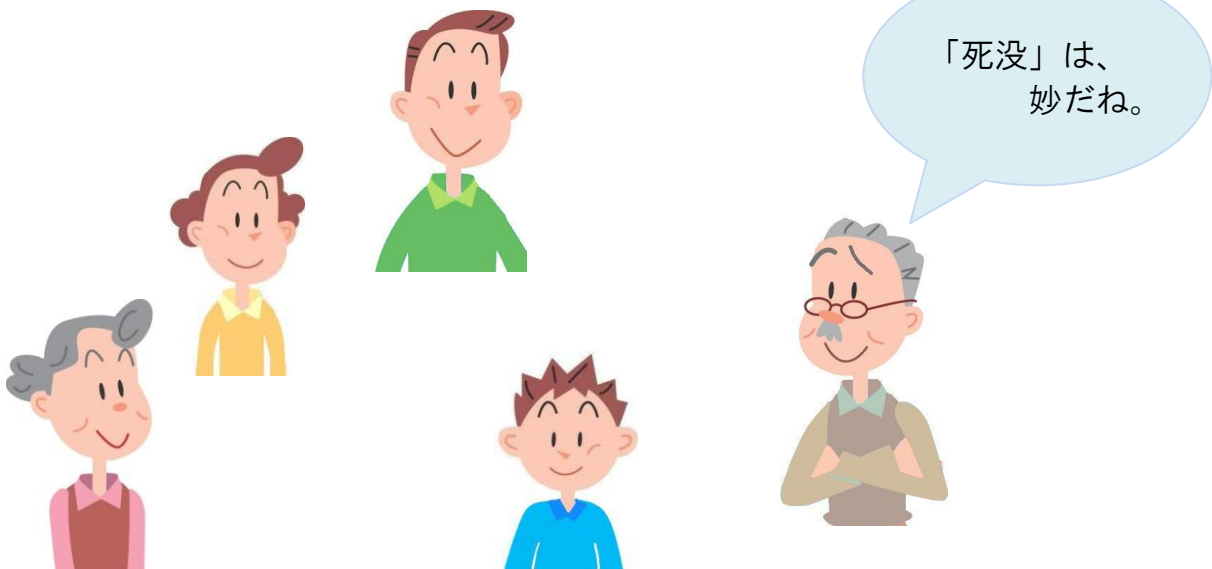
おじいさんおばあさんを交えての夕食の済んだ日曜日の夜です。タモツ君が言いました。
「おばあちゃん、日が沈むことが「日没」なのに、「水没」というのは、水に沈むことだっ
て、お母さんに教わったんだ。どうして「水に」になるの。」

「あらあら、むずかしい話になったのね。「日没」は〈なにがどうする〉という型だけど、「水
没」は〈なににどうする〉という型なのね。上にどんな漢字がくるかで、違うの。「沈没」
というと、沈むと没するだから、同じような意味の漢字を重ねた型、「出沒」というと、姿
を現したり隠したりだから、反対の意味の漢字を重ねた型でしょ。」

「反対の意味を重ねたというと、「生没」というのもありますね。」と、お父さん。

「その「没」は、死ぬということで、もとは「歿」だろ。漢字制限で「歿」をなくしたから、
「没」をあてるんだ。「沈没」はいいけど、「死没」は、妙だね。」と、おじいさん。

死 歿
↓
死 没



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (175)

没と歿

おじいさんおばあさんを交えての夕食の済んだ日曜日の夜です。家族で話しています。

「おじいちゃん、シボツは、どうしてミョーなの。」と、タモツ君。

「タモっちゃんには、むずかしいかな。「沈没」というと、沈むと没するだから、同じような意味の漢字を重ねた熟語だってわかるけど、「死没」だと、死ぬと没するだから、ちょっと変なのよ。」と、おばあさん。

「サンズイの「没」は、水に入って見えなくなるってことなんだ。シボツのボツは、もともとは、カバネヘンで、死んで骨になって見えなくなるってこと。だから、「死歿」だと、同じような意味の漢字を重ねたことになるんだがね。」と、おじいさん。

「サンズイとカバネヘンだけでなく、ツクリの「又」の上も違うね。」と、タモツ君。

「そう。「没」も、もとは、「沒」だったんですよ。」と、おばあさん。



「没」は、水に入って見えなくなることなんだよ。



「没」も、もとは、「沒」だったんですよ。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (176)

凡と勺

おじいさんおばあさんを交えての夕食の済んだ日曜日の夜です。家族で話しています。

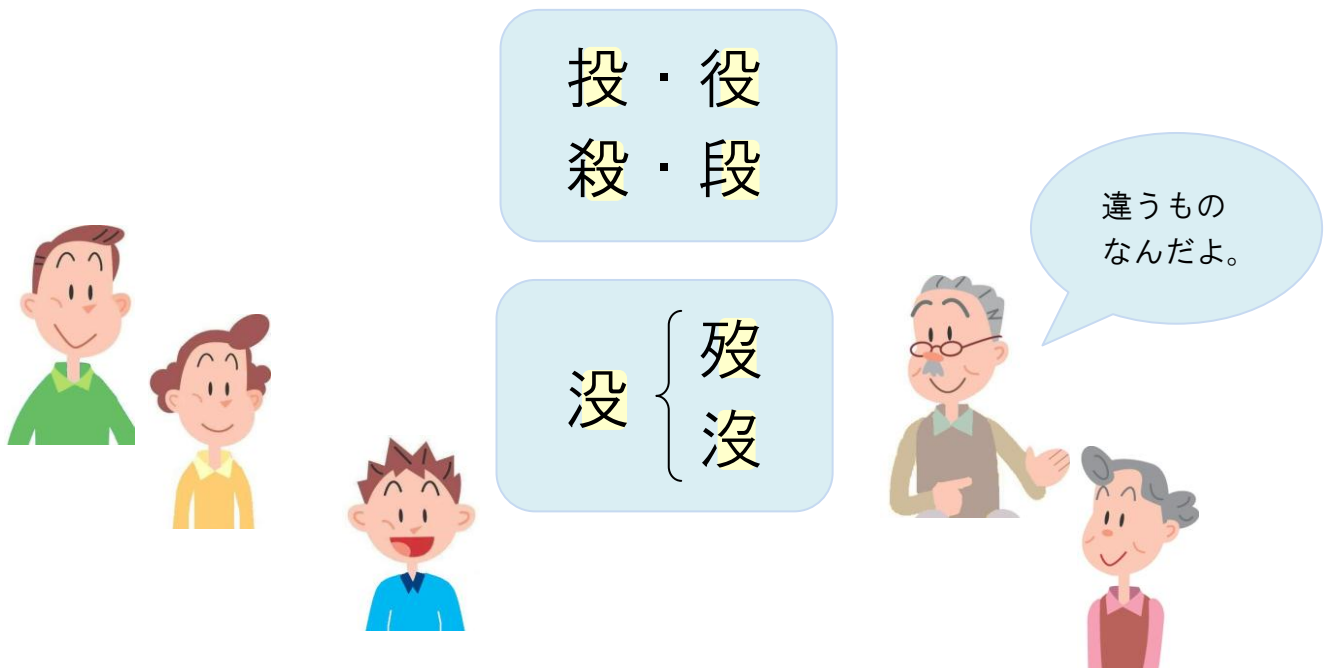
「タモツに言われて気がついたけど、沈没の没のツクリは、投手の投とか役目の役とかのツクリと同じなんだね。」と、お父さん。

「うん。ルマタになっている。」と、おじいさん。

「ルマタって、ホコツクリのことでしょ。」と、タモツ君。

「そう。𠂔^{シュ}よね。殺人の殺とか階段の段とかの部首になっている。」と、おばあさん。

「下の又^{ユウ}は手で、上の凡^キは先に青銅の重りをつけた棒とか杖とか立てた羽とからしい。この𠂔と、「没」のもとの「没」や「歿」のツクリのボツとは違うものなんだね。「没」や「歿」のツクリは、上^{カイ}が勺になっている。勺はもとは回で、うずまきと見たりするけれど、勺+又で、見えなくなるとか見えなくするとかということらしい。」と、おじいさん。



【編集部注】『大漢語林』（平成4年、大修館書店）には、「𠂔」の解字に「象形。手に木のつえを持つ形にかたどり、ほこ・木のつえの意味を表す。」とあります。また、「没」の解字で、音符のボツ（ワープロでは書けません。「回」の下に「又」の字です。）について、「うずまく水中に手を沈め物を取りだすの意味。」とあります。なお、「勺」はワープロであてられる近い形です。実際は、ご覧のように、一画目がもっと長く、下まで降りています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (177)

書き換え漢字

タモツ君のおばあさんの家で、タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「先日、お義父さまが生没の没は歿だったって話してらしたけど、漢字制限で別の字があてられるようになったのって、ほかにもありますか。」

「たくさんありますよ。白亜の殿堂の亜だってもとは聖だし、廃虚の虚だってもとは墟だし、おしゃべりの冗舌の冗はもと饒、脈拍の拍はもと搏、気迫の迫はもと魄でしょ。」

「あら、廃墟の墟を虚って書くことがあります？」

「新聞ではそうなっていますよ。」

「気づきませんでした。ツチヘンがついていないと、ハイキョの感じが出ませんね。」

「年齢によるのかしら。そうそう、小学校では「年令〇才」って教わってくるから、中学校で「年齢〇歳」と書かせるのがたいへんだったの。今もそうかしら。」

白亜
↑
聖

廃虚
↑
墟

冗舌
↑
饒

脈拍
↑
搏

気迫
↑
魄



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (178)

令と齡

タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「どうして、小学校で「年令〇才」なんて、教わるのかしら。」

「令は4年生で、才は2年生で教わることになっているの。4年生だと、命令ということばで令が教えられるけれど、2年生で才の字は出しにくいよね。天才とか秀才とか才能とかってことばは、2年生にはわかりにくいでしょ。それで、「年れい〇才」の形で教材に出すことになったようなの。まだ、2年生では令の字が出せないから、かな書き。」

「そうなんですか。そういえば、書類なんか「年令 才」と印刷してあるのを見ることがありますね。」

「そう。中学生になると、令嬢・法令の令と、年齢・老齡の齡との違い、秀才・才媛の才と歳月・歳末の歳の違いを学ぶから書き分けるけれど、一般にはおおらかなのよね。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (179)

「萎縮」の復活

タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「平成 22 年 11 月に常用漢字表が改定されて、書き換えられた表記がもとに戻ったのもあるの。委縮が萎縮に、憶病が臆病に、名誉棄損が名誉毀損に、禁固が禁錮に……。」

「憶病とか棄損とかは見たことがありますけれど、委縮なんて使っていました？」

「新聞で見たことがありますよ。クサカンムリがないと、ゆだねるって意味だから、不自然な感じがありますものね。イシュクという発音だけを表すのなら、「委宿」でもよいことになりそうですもの。漢字というのは一字一字に意味のある語であるということがないがしろにされた時代があったのですね。」

「萎縮だと、なえ、ちぢむということで、一目瞭然ですものね。」

「そう。食事療法も食餌療法のほうがはっきりするように感じるのは、年齢^{とし}のせいかな。」

萎縮
↑
委縮

臆病
↑
憶病

名誉毀損
↑
名誉棄損

禁錮
↑
禁固

食餌療法
↑
食事療法



【編集部注】「萎・臆・毀・錮・餌」は、新たに常用漢字表に収められた 196 字の一部です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (180)

「込む」と「混む」

タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「常用漢字表の改定で、訓も増えましたよね。「恐れる」と「畏れる」、「書く」と「描く」、
「答える」と「応える」なんかはありがたいのですが、「込む」と「混む」には悩みます。」

「そうねえ。ずっと、「こみ合う」も「人ごみ」も「込む」でしたものね。」

「お義母さまは、どうなさっていらっしゃいます？」

「簡単。混雑するというときだけ「混む」。「こみ合う」は「混み合う」、「人ごみ」は「人混み」。「こみいった事情」なんかは、別に混雑しているわけでないから、「込み入った事情」だし、「手のこんだ細工」も、混雑ではないから、「手の込んだ細工」。」

「そうか。熟語に言い換えてみるといいですね。よい香りは「匂う」、いやな臭いは「臭う」のように、すっきりとは書き分けられないので、困っていました。」



込む と 混む

込み入った

手の込んだ

混み合う

人混み

||

混雑



【編集部注】「畏れる」の「畏」は新たに常用漢字表に収められた字。「描」の「かく」、「応」の「こたえる」、「混」の「こむ」、「臭」の「におう」は、加えられた訓です。なお、「描」には「えがく」という訓しかありませんでした。ついでながら、新たに「猫」が加わったので、常用漢字表には音符「苗」の漢字が「苗・描・猫」の3字になりました。よく用いられる投錨・抜錨の「錨」は表外字です。「錨」の音は「ビョウ」、訓は「いかり」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（181）

「風立ちぬ」

タモツ君のおばあさんに電話がかかってきました。古い友人のメグミさんからです。

「伺いたいことがあって、お電話したのですけれど、今、よろしゅうございます？」

「どうぞ。」

「句会の兼題が「爽やか」で、流星群を見たいと思って娘と空を見上げていたら、爽やかな夜風が吹いてきたときのことを句にしたくて、上五を「風立ちぬ」にしようと思ったの。

ところが、手回りの辞書には、「風立つ」という言い方が出ていませんの。」

「あら、そっくりそのまま、堀辰雄の「風立ちぬ」があるじゃありませんか。」

「そう。PAUL VALÉRY の *Le vent se lève, il faut tenter de vivre.* を「風立ちぬ、いざ生きめやも。」と訳したというのでしょうか。この作品は、昭和 11 年 1936 年に書いたのでしょうか。昭和の時代になるまで、風が立つという言い方って、なかったのかしら。」



辞書には「風立つ」
という言い方が
出ていませんの。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（182）

「秋風の立ち来る時」

タモツ君のおばあさんが大学時代の古い友人のメグミさんに電話をしました。

「先日の「風立つ」のこと。『日本国語大辞典第二版』を見たら、風については、『土佐日記』の「ひねもすになみかぜたたず」と『海道記』の「そとの小川には河傍楊に風立て」と俳諧『曠野』の「片風たちて過る白雨」^{ゆふだち}の用例が出ているだけなの。」

「初出が『土佐日記』だと、935 年ごろ？」

「そう。『海道記』は 1223 年頃って書いてある。で、つれあいにきいたら、さらっと「『万葉集』にあるだろう。」って言うの。」

「え？ 『万葉集』に。」

「そう。それで 280 例ほどある「立つ」を見てみたの。たった 1 例だけど、ありました。
巻 11 - 2626 の「古衣打棄^{ふるころも う っ}つる人は秋風の立ち来る時に物思^くふもの^{ものおも}そ」というの。」



【編集部注】「古衣」の歌、「長年、連れ添って親しんできた妻をうっちゃって顧みない人は秋風の吹いてくるときに物思いをするものだ。——冬に近づく秋になると肌寒くなり、古着のような妻であっても恋しくなるものだ。」というのです。原文は「古衣打棄人者秋風之立来時尔物念物其」とあり、一字一音ではありませんが、「秋風之立来」が「あきかぜのたちくる」であることは確かであると見られます。なお、この用例は、『広辞苑』の「立つ」の項に引かれています。ただし、「打棄」は「うちつる」と訓まれています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（183）

「波は立ち、風は吹く」

喫茶店で、タモツ君のおばあさんが大学時代の友人のメグミさんと話しています。

「先日は、お電話をありがとうございました。久々にお話ができ、今日はまた十数年ぶりにお会いすることができて、うれしく存じますわ。」

「こちらこそ。「風立つ」の『万葉集』の用例を教えてください、ありがたかったですわ。でも、驚きましたの。「風立つ」は、1例しかないなんて。」

「私もざっと見渡して、驚いたの。巻10-2058の「年に装ふ我が舟漕がむ天の川風は吹くとも波立つなゆめ」のように、多くは、風は吹く、波は立つなんですよ。」

「やはり、立つは波が多いのかしら。」

「そう。波が50例ほどかしら。次が霧の28例ほど、その次が雲の17例ほど、以下、霞の15例ほど、煙の7例ほどだったかしら。人とか鳥とか鹿とかが立つのは別にして……。」

「立つ」の用例

波 → 50 例

霧 → 28 例

雲 → 17 例

:

風 → 1 例

※人や鳥は除く

【編集部注】「年に装ふ」の歌、「一年がかりで準備して飾り立てたわが舟を漕ぎ出そう。かりに天の川に風が吹くにしても、波は立たないでくれ、絶対に。」というのです。原文は「年丹装吾舟滂天河風者吹友浪立勿忌」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (184)

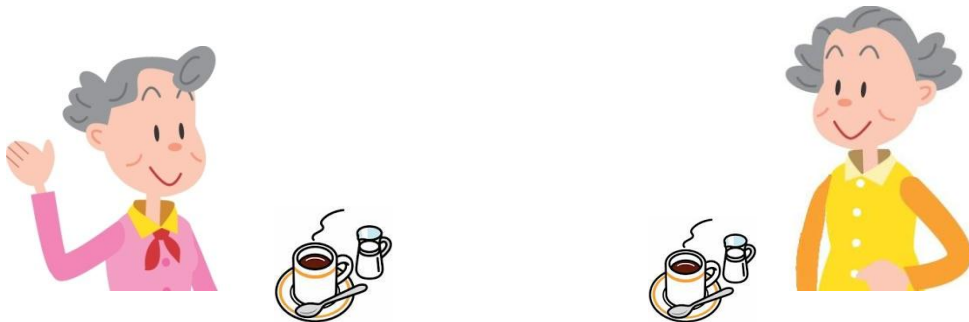
「かぎろひの立つ」

喫茶店で、タモツ君のおばあさんが大学時代の友人のメグミさんと話しています。

「あなた、人麻呂の「東^{ひむがし}の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月^{かたぶ}傾きぬ」って歌、ご存じでしょ。驚いたのは、「かぎろひの立つ」は、この用例だけなの。」

「あ、それ、句会で若い方が教えてくださったわ。中公新書の白石良夫という人の『古語の謎』という本に、「ひむがし」ということばは、歌語としては使われず、江戸時代に賀茂真淵が「あづま野に煙の立てる所見て」というのを「ひむがしの野にかぎろひの立つ見えて」と訓み改めてから、歌でも使われるようになったと書いてあるのですって。」

「そうなの。ありがとう。原文は「東野炎立所見而」ですものね。「炎立」が「煙の立てる」なら、「春日野^{かすがの}に煙立つ見ゆ娘子らし春野^{をとめ}のうはぎ摘みて煮らしも」なんかと同じですから、よくわかるわ。「かぎろひの立つ」と訓み改めたから、類例が見当たらないのね。」



【編集部注】「春日野に」の歌は、巻 10-1879 の歌です。「春日野に煙の立っているのが見える。乙女たちが春の野のヨメナを摘んで煮ているらしいよ。」というのです。原文は「春日野尔煙立所見口(ワープロでは書けません。女偏に感の字)孀等四春野菟芽子採而煮良思文」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (185)

「吹く」と「立つ」

タモツ君のおばあさんの家で、タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「お義母さまの学生時代のお友だちが「風立ちぬ」という表現を使って俳句をお作りになりたいとおっしゃったということ、どうなりました？」

「ええ、そのとおりになりましたよ。」

「ほら、「ついばむ」っていうと、「鳥が」だし、「いなく」っていうと、「馬が」でしょう。

「立つ」っていうと、波とか雲とか霧とか霞^{かすみ}とか煙とか炎^{ほのお}とかだし、「吹く」っていうと、風でしょう。どうして、「風吹きぬ」ではいけないのでしょうかね。」

「俳句って、私にはわからないけれど、風が吹いたというより風が立ったというほうが目に見えるように感じるのではないかしら。それに、堀辰雄の「風立ちぬ」が思い浮かべられて、滅びることにはなるのだけれど、一瞬のいのちのきらめきを感じられるのかしら。」



「風が立った」というほうが目に見える
ように感じるのではないかしら。

【編集部注】俳句で「風立つ」を用いた例には、大野林火^{おおのりんか}（明治 37(1904)～昭和 57(1982)）の昭和 27(1952)年作の「風立ちて月光の坂ひらひらす」があります。この句は、昭和 33(1958)年刊『白幡南町』^{にしじまばんなん}に収められています。また、西島麦南^{ひるす}（明治 28(1895)～昭和 56(1981)）の句に「蓮掘りに午過ぎの日の風だちぬ」とあります。これによると、「かぜだつ」と濁ることもあったようです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（186）

「虹がかかる」

タモツ君のおばあさんの家で、タモツ君のお母さんとおばあさんが話しています。

「そうそう、お義母さまは、虹^{にじ}については、どうおっしゃいます？」

「虹？ 虹は「かかる」じゃないの？」

「そうですね。このあいだ、タモツが「虹が出ている！」って、言うんです。」

「あら、「出る」でも、いいじゃないの。」

「そうですか。私が虹は「かかる」よ、って言うと、タモツ、どうして、って……。そうきかれても、虹は「かかる」だから、答えようがなくて……。」

「答えようがないなんて、和子さんにしては、めずらしいわね。天然現象としての虹は「出る」でよいけれど、大空にかかる七色の橋に見立てて「かかる」と言ったのでしょ。」

「橋に見立てた縁語だったのですか！」



天然現象としての虹は「出る」、
大空にかかる七色の橋に
見立てて「かかる」、なんだね。

【編集部注】「縁語^{えんご}」とは、「歌文中で、ある言葉との照応により表現効果を増すために使う、その言葉と意味上の縁のある言葉。例えば「白雪の降りてつもれる山里は住む人さへや思ひ消ゆらむ」の「雪」に対する「消ゆ」の類。」（広辞苑、第六版）。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（187）

しりとり遊び、シャ→ヤ？

夕食後です。小1のエミちゃんがお兄さんのタモツ君としりとり遊びをしています。

「エミが^{すいか}「西瓜」につづけて、「火事」だから、ぼくは「自動車」。」

「お兄ちゃんは、ジドーシャだね。シャだから、野菜。」

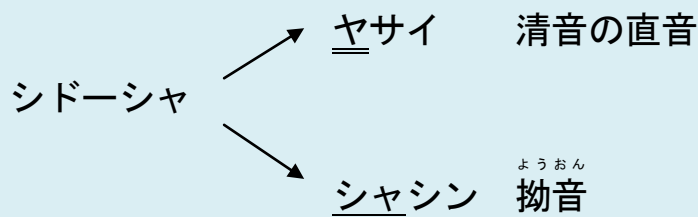
「ヤサイ？ ジドーシャだから、シャで始まることばだよ。」

「シャは「し・や」って書くんだよ。だから、ヤサイ。」

「そうか。でもね、エミ、「し・や」の「や」は小さく書くでしょ。シャで一つの音。」

「そうだね。「しゃ」の「や」は小さく書くね。小さくても「や」だから、ヤで始まることばでつづけることもあるけど、お兄ちゃんが言うように、シャで一つの音だから、シャで始まることばでつづけるほうがいいかな。」と、お父さん。

「うん、わかった。じゃあ、写真。」と、エミちゃん。



【編集部注】しりとり遊びは、小学校1年生の国語の入門期に扱われることが多く、文字指導との関連もあって、「つくし→しまうま→まつ→つき→きつね→ねこ……」などと、清音の直音だけの語が選ばれています。エミちゃんは、^{ようおん}拗音のシャを一つの音として見ることはできなかったのです。拗音は二文字で書かれますが、音としては一つの音です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（188）

写真→新聞

夕食後です。小1のエミちゃんが兄の小4のタモツ君としりとり遊びをしています。

「え、「自動車」のしりとりが「写真」？ シャシンはンだから、エミの負け。」

「あ、そうか。じゃあ、シャボン玉！」

「すごい！ じゃあ、まんが。」

「がいこつ。」

「エミ、いいね！ さっき、「写真」は「ん」だからって、タモツは負けにしたけど、おしまい「ん」になることばのときは、「ん」の前の音と一緒にしてつづけることにしてもいいんだよね。シャシンだと、シンでつづける。」と、お父さん。

「おもしろい。じゃあ、「写真」のしりとりは「新聞」。」と、タモツ君。

「シンブン？ ぶんぶんぶん、ハチが飛ぶ。」と、エミちゃん。



「ん」で始まる語がないから、
「オン」でしりとりをつづけることにしても
いいんだよね。

【編集部注】しりとり遊びでは、はつおん撥音の「ん」で始まる語がないので、「ん」で終わる語でしりとりを
すると、「負け」にするというのがふつうです。ここでは、お父さんが「ん」とその前の1音とを組み
合わせた「オン」でしりとりをするというルールを示しています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (189)

タッパ→パーセント

夕食後です。小1のエミちゃんが兄の小4のタモツ君としりとり遊びをしています。

「エミ、そんなのあり？」「新聞」のしりとりが「ぶんぶんぶん、ハチが飛ぶ」だなんて。
ずいぶん長いけど、終わりは「飛ぶ」の「ぶ」だから、ぶた。」

「タッパ。」

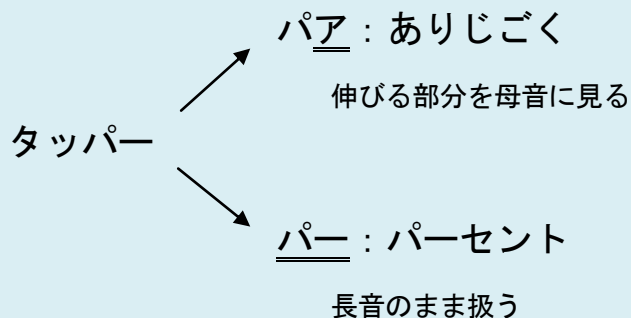
「タッパ？ なに、それ。」

「ほら、残った御飯なんかを入れて、冷蔵庫にしまってある入れ物。」と、お母さん。

「ふーん。じゃあ、ありじごく。うすばかげろうの幼虫だよ。」

「タモツ、パーだから、パアにしてアで始まることばにつづけるのもいいけど、パーで一つの音だから、パーで始まることばにしたら……。」と、お父さん。

「おもしろい！ じゃあ、パーセント。」



【編集部注】長音の扱いが問題になっています。長音は一続きに発音される1音ですが、2拍です。しりとり遊びでは、「セーター→あめ、スキー→いか、カンガルー→うさぎ、カレー→えび、シーソー→おに」のように、伸びる部分を母音に見てその母音の語で受けることが多いのですが、ここでは、長音のまま扱おうとしています。なお、「タッパ」は商品名の Tupperware のウェアの部分を省いて用いているものです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（190）

パー〇〇

夕食後です。小1のエミちゃんが小4のタモツ君としりとり遊びをしています。

「お兄ちゃん、「パーセント」って？」

「そうか。リンゴが100個あるとして、その1個が1パーセントだし、10個のリンゴがある
とすると、その20パーセントが2個なんだけど、エミには、わかんないか。」

「そう、百分の一のことだけど、むずかしいね。」と、お父さん。

「エミ、「パーマネント」は、わかる？」と、タモツ君。

「お母さんの髪の毛の「パーマ」？」

「そう。」

「エミ、「パーティー」は、知ってる。それから、「パート」も、知ってる。」

「そう！ 「パーティー」も知っているんだ。」と、お父さん。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（191）

テとティー

夕食後です。小4の兄のタモツ君としりとり遊びをしていた小1のエミちゃんが「パー」で始まることばとして「パーテー」と言い、お父さんが「パーティー」と言い換えました。

「お父さん、パーチャーじゃないよ。パーテー。」と、エミちゃん。

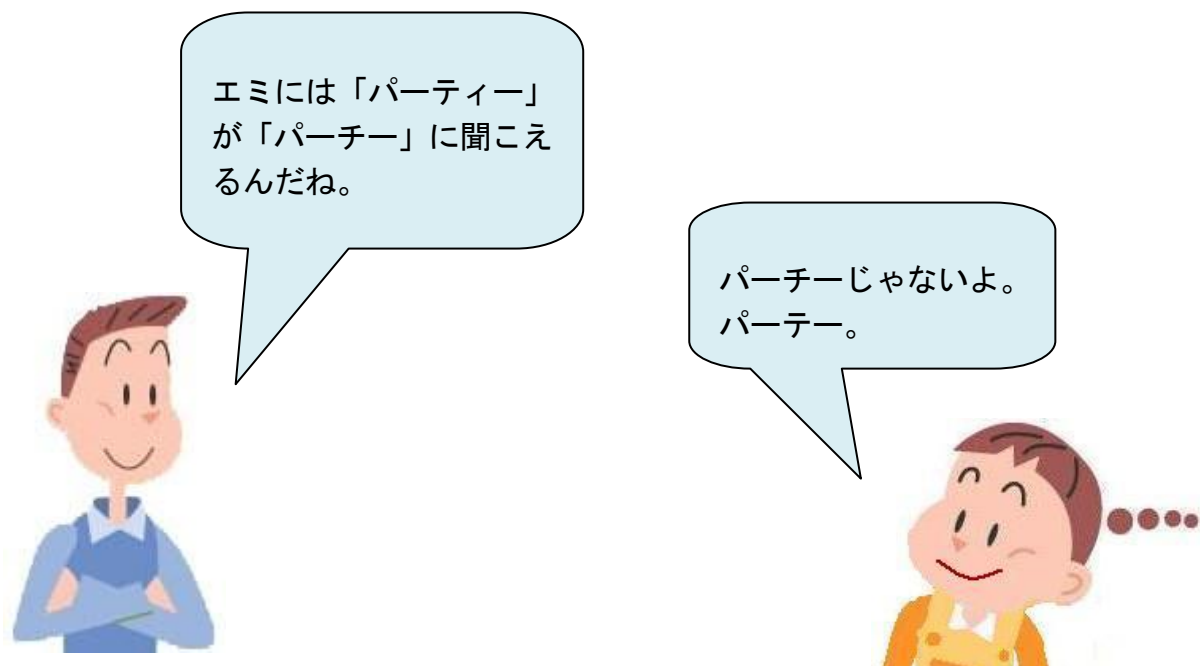
「そうか。エミには「ティー」が「チャー」に聞こえるんだ。」と、お父さん。

「そうよね。サッカーのチームだって、ティームじゃないものね。」と、お母さん。

「チームって、ティームなんて言うことがあるの？」と、タモツ君。

「英語ではティームだろ。英語のティーが日本語ではチャーになるんだ。でも、ティーパーティーは、チャーパーチャーには、ならないよね。」と、お父さん。

「そうよね。スチームアイロンは、スチームアイロンになってるけど……。新しいことばは、英語の発音に近いのかしら。」と、お母さん。



【編集部注】発音記号で表すと、テは[te]、チは[tʃi]、ティは[ti]です。テ・ティのときは舌先が上歯茎に触れますが、チのときは舌が平らになって、上歯茎に触れません。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (192)

チとティ

夕食後です。「パーテー」か「パーティー」かで、盛り上がっています。

「エミ、チーじゃなく、ティーって、言える？」と、タモツ君。

「チー、テー、チー、テー……。」

「うん。じゃ、タ・ティ・トウ・テ・トって、言ってごらん。」

「タ・ティ・トウ・テ・ト。」

「そう！ じゃ、ター・ティー・トゥー・テー・トーって、言ってみよう。」

「ター・ティー・トゥー・テー・トー。」

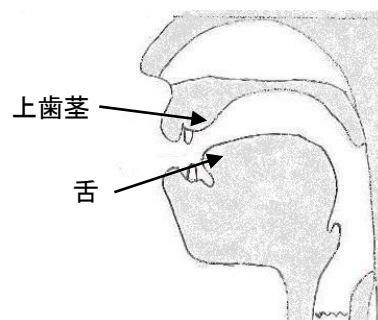
「うん、それでいいの。お父さんが言ったパーティーって、エミにも言えるよね。」

「パーティー。」

「そう。それでいいの。」

タ・チ・ツ・テ・ト
[ta ʧi tsu te to]

タ・ティ・トウ・テ・ト
[ta ti tw te to] k



【編集部注】発音記号で表すと、タ・ティ・トウ・テ・トは、[ta ti tw te to]です。ティもトウも、タ・テ・トのときと同じで、舌先が上歯茎に軽く触れます。なお、ウが [u] でなく [w]なのは、日本語のウ [w] が、舌を縮め唇を丸めて突き出す、英語の book などのウ [u] ではないからです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(193)

チャ・チ・チュ・チェ・チョ

夕食後です。小4のお兄さんのタモツ君に教わって小1のエミちゃんが「パーティー」と言えるようになりました。

「タモツ、すごいね。タ・ティ・トウ・テ・トって言うなんて……。」と、お父さん。

「うん。ずっと前に、お母さんに教わったんだ。タ・ティ・トウ・テ・トと、チャ・チ・チュ・チェ・チョと、ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオ。」

「そうなんだ。エミは、どう？ お兄ちゃんのように、チャもツアも言えるかな。」

「チャ・チュ・チョは、言える。」

「いや、チャ・チ・チュ・チェ・チョ、ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオって、言うんだよ。」

「チャ・チ・チュ・チェ・チョ。ツ、ツ、ツ……。」

「そう。ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオは、むずかしいんだね。」と、お父さん。

「パーティー」と言えるようになったよ。
「チャ・チュ・チョ」も言えるよ。



【編集部注】発音記号で表すと、チャ・チ・チュ・チェ・チョは、[tʃa tʃi tʃu tʃe tʃo]です。どの場合も、舌先が平らになって、上歯茎には触れません。このうちの、チ[tʃi]はタ行の直音の一つとして、チャ・チュ・チョ[tʃa tʃu tʃo]はタ行の拗音ようおんとして、小学校1年生で学びます。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (194)

ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオ

夕食後です。タモツ君の妹の小1のエミちゃんが、ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオの発音に挑戦しています。

「エミ、ツって、言えるよね。」と、タモツ君。

「うん。ツでしょ。」

「そう。そのツの口の形で、アって言うの。」

「ツ……ア。」

「そう、そう。それでいいの。ツア、ツア、ツアって、くつつけて、速く言うの。」

「ツア、ツア、ツア、ツア……。」

「ほら、できた！ ツア、ツア。ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオ。」

「ツア、ツア。……ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオ。ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオ。……」

現代日本語のタ行音

ちよくおん
直音

タ・チ・ツ・テ・ト

[ta tʃi tɕu te to]

ようおん
拗音

チャ・チュ・チョ

[tʃa tʃu tʃo]

【編集部注】発音記号で表すと、ツア・ツイ・ツ・ツエ・ツオは、[tsa tɕi tɕu tɕe tɕo]です。舌先が前歯に近づき、上歯と下歯の隙間から音が出る感じです。このうちのツ[tɕu]は、タ行の直音の一つとして、学びます。

以上、191 からここまでをまとめると、現代日本語のタ行音は、^{ちよくおん}直音がタチツテト[tʃa tʃi tɕu te to]、^{ようおん}拗音がチャチュチョ[tʃa tʃu tʃo]です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（195）

ツア・ツイ

小1のエミちゃんは、小4のお兄さんのタモツ君に教わって、「ツア・ツイ・ツ・ツェ・ツォ」の発音ができるようになりました。

「エミ、ツア・ツイ・ツ・ツェ・ツォって言えるようになったけど、ツアとかツイとかって、言うことがあるの？」と、エミちゃん。

「ほら、エミが好きなモーツァルトの子守唄があるでしょ。あの子守唄を作った人の名前がモーツァルト。だから、モーツァルトの子守唄なの。」と、お母さん。

「あ、そうか。モーツァルトのツアか。」

「ツイは、ツイッター。」と、お父さん。

「あれは、ツイッターじゃないの。」と、タモツ君。

「インターネットでのおしゃべりでしょ。わたしもツイッターだな。」と、お母さん。



【編集部注】商標名としても用いられている twitter は、実際の発音は、トゥイッター、ツイッター、ツイッターなど、さまざまに聞かれますが、書きことばとしては、新聞などでは「ツイッター」と書かれています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（196）

ツエ・ツォ

夕食後です。小1のエミちゃんの言えるようになった「ツァ・ツイ・ツ・ツエ・ツォ」を用いる語についてのおしゃべりで、盛り上がっています。

「ツエやツォは、ぼくも使ったことがないなあ。」と、タモツ君。

「ほら、スキーのジャンプ台のことをシャンツェって、言うだろ。」と、お父さん。

「それに、飛行船を作ったツェッペリンという人がいたでしょ。」と、お母さん。

「ツォは、イタリアの歌のカンツォーネかな。」と、お父さん。

「外国の人の名前とか外国のことばだね。」と、タモツ君。

「そうだね。」と、お父さん。

「でも、お相撲さんは、「ごちそうさま」を「ごっつあんです」って言うし、タモツだって、「ごっそおーさま」って言うじゃないの。」と、お母さん。

ツァ：モーツァルト（作曲家）

ツイ：ティツィアーノ（画家）

ツエ：フィレンツェ（地名）

ツォ：カンツォーネ（イタリア語）



【編集部注】平成3年6月28日内閣告示第2号「外来語の表記」によると、第1表の〈「ツァ」「ツエ」「ツォ」は、外来音ツァ、ツエ、ツォに対応する仮名である。〉とあり、〔例〕として、コンツェルン、シャンツェ、カンツォーネ、フィレンツェ（地）、モーツァルト（人）、ツェッペリン（人）が示され、第2表の〈「ツイ」は、外来音ツイに対応する仮名である。〉とあり、〔例〕として、ソルジェニーツィン（人）、ティツィアーノ（人）が示されています。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（197）

べっとり

タモツ君のおばあさんに電話がかかってきました。俳句が趣味のメグミさんからです。

「今日も、俳句のことば遣いのことなのですけど、よろしいでしょうか。」

「ええ、どうぞ。」

いい だ だ こつ かり
「飯田蛇笏の句の「雁ゆきてべつとりあをき春の峰」の「べつとり」が気になったのですけれど……。こんなふうに使えるのかしら。」

「ええ。「にこにこ」の「にこ」が「にっこり」になるように、「べとべと」の「べと」が「べっとり」になっているのですよね。雁が北国に帰る春の季節になって、太い筆で油絵の具を塗りつけたように峰の緑が深くなったというのかしら。」

「そう、そんな情景でしょうけれど、「べっとり」というのは、下品に感じませんか？」

「上品でさわやかというのではないけれど……。でも、下品には感じませんわ。」



飯田蛇笏

「雁ゆきてべつとり
あをき春の峰」



【編集部注】飯田蛇笏の俳句は、文語文なので、旧仮名遣いで書かれています。「べつとり」は「べっとり」、「あをき」は「青き」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（198）

e 段の音を含む擬態語

夕食後です。タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「今日、学生時代のお友達で俳句をやっているメグミさんから電話があつて、飯田蛇笏の「雁^{だ こつ かり}ゆきてべつとりあをき春の峰」の「べつとり」が下品に感じないかって。」

「1978 年に角川書店から出た『擬音語・擬態語辞典』の解説で金田一春彦先生が e 段の音を含む擬声語・擬態語は「あまり品のいい形容とはいいがたい」とおっしゃっている。」

「そうなの。この「べつとり」も、品がよくない？」

「蕪村の「かきつばた^{ぶ そん}べたり^{とび}と鳶のたれてける」の「べたり」は、どうだろう。」

「かきつばたに^{ふん}鳶の糞がべたりか。あまり品がよくないわね。」

「雅を俗に転ずるというのか、あえて俗なことばを用いて言いとめる。一茶の「湯上がりの^{いっ さ}尻^{しり}にべつたり^{しやう ぶ}菖蒲かな」の「べつたり」なんて、うまく言ってるんじゃないかな。」

e 段の音を含む擬態語の例

「ぺたぺた」
貼る

「めらめら」
燃える



【編集部注】一茶の俳句は、旧仮名遣いで書かれています。「べつたり」は「べったり」、「菖蒲」のふりがなの「しやうぶ」は「しょうぶ」です。五月五日の端午の節句には、邪気を払うために、引き抜いた菖蒲を浮かべた菖蒲湯に入ります。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（199）

げたげた・げらげら

夕食後です。タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「そう言えば、一茶には「^{いっさ}負角力むりに^{まけずまう}げたげた笑ひけり」という句がありましたね。」

「うん。「^{おき}投げられて^{すまう}起てげらげら角力かな」というのもある。」

「先日、小学館から出ている豪華版の『日本の歳時記』というのを見ていたら、「三月の甘納豆のうふふふふ」という坪内稔典^{ねんてん}の句が出ていたの。この「うふふふふ」に比べると、一茶の「げたげた」や「げらげら」は、品のない笑い声かもしれないわね。」

「若い女の子の含み笑いの「うふふふふ」に比べられるのは気の毒だけど、相撲に負けた恥ずかしさとか照れ隠しの気持ちとかが見事に出ているのじゃないかな。」

「そうそう、蕪村には「^{ぶ そん}てらてらと石に日の照る枯野かな」っていうのがありましたね。この「てらてら」は、品のよくない感じではありませんよね。」

いろいろな
笑い声

げらげら



にこにこ



うふふふふ



【編集部注】俳句は文語文で書かれているので、仮名遣いは旧仮名遣いです。「すまう」は「すもう」、「笑ひ」は「笑い」です。なお、坪内稔典は、本名が「としのり」、俳号が「ねんてん」です。川崎展宏も、本名は「のぶひろ」、俳号は「てんこう」です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ（200）

「てらてらと」と「蕭条と」と

夕食後です。タモツ君のおじいさんがおばあさんと話しています。

「蕪村の枯野ぶそんの句では「蕭条せうでうとして石に日の入る枯野かな」が有名だけど、「てらてらと石に日の照る枯野かな」もいいね。でも、蕪村自身は「てらてらと」の句は、自選の句集には採らなかったんだね。やはり、『文選』の班固もんぜん はん この「西都賦」にある「原野蕭条」という語を踏のこまえた「蕭条として」のほうを後世に遺そうとしたのだろうね。」

「そうなの？ 石がごろごろしている枯野の入日がもの寂しいというより、枯野にごろごろしている石が日に照らされて赤々と光り輝いているというほうが明るい情景だから、かえって寂しく感じるのじゃないの。」

「うーん、どうなのかなあ。「てらてらと」って言われると、正岡子規し き はげやまの「兀山はげやまのてかてかとして麦の秋」の「てかてかと」が思い浮かんで、ちょっと滑稽な感じもするね。」



『文選』は、中国南北朝時代、南朝梁の昭明太子によって編纂された詩集です。



【編集部注】俳句は文語文で書かれているので、仮名遣いは旧仮名遣いです。ふりがなの「せうでう」は「しょうじょう」です。